

平成26年度 阿賀野市図画工作部 活動報告

部長 永井 加代子（阿賀野市立水原小学校）

1 研究主題

子どもの表現力を高める指導の在り方

2 研究の概要

4月22日（火）組織の構成 役割分担 事業計画立案

6月10日（火）実技研修「絵画指導のさまざまな技法」

講師：新発田市立藤塚小学校校長 長谷川重雄様

11月25日（火）実技講習「くっつけてくっつけて」「高い塔を作ろう」（造形遊び）

講師：阿賀野市立京ヶ瀬小学校教諭 吉田直彦様

3 研究の実際

(1)「絵画指導のさまざまな技法」（会場：水原小学校 図工室）

新発田市立藤塚小学校校長 長谷川重雄様をお招きし、絵画制作のさまざまな技法を御指導いただいた。たくさんの表し方を知ることで、子どもの「表したい」思いはより豊かなものとなる。そのためにまず指導者が子どもの気持ちになって実際に制作してみる、そして必要な物や仕掛けは何かを考えることが重要であると教えていただいた。また、100円ショップで手に入る道具の活用術には目を見張るものがあり、さっそく翌日から使える貴重なお土産となった。



(2)「くっつけてくっつけて」「高い塔を作ろう」（会場：水原小学校 図工室）

阿賀野市立京ヶ瀬小学校教諭 吉田直彦様から、緩衝剤を使った造形遊びを御紹介いただいた。この緩衝剤は、わずかな水分を付けるだけで接着することができる。完成をイメージしてつなげていく部員あり、とにかくつなげて何かに見立てる部員ありと、子どもの気持ちになって造形遊びを楽しんだ。また、後半には「高い塔を作ろう」という課題でグループ制作に取り組んだ。目的がはっきりすることでより意欲が高まり、活動に没頭することができた。魅力的な素材やテーマと出合わせることが子どもの表現の広がり、高まりにつながることに気付き、大変参考になった。



4 成果と課題

2回の研修では共通して、子どもの表現力を広げ高めるために指導者はどうかかわればよいかを学ぶことができた。自主性尊重の名の下に「教えない教師」、失敗させないために「何から何まで教える教師」では子どもの表現力は育たない。価値のある題材を用意し、実際に制作してみてもつまずきへの手立てを用意することが指導の大前提である。そのことを常に念頭に置いて、今後の指導に当たっていきたい。